

教区通信

# ふくおか

2017(平成29)年1月1日発行

Vol.119

発行

「御同朋の社会をめざす運動」  
福岡教区委員会



「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動) スローガン

## 結ぶ絆から、広がるご縁へ

-From tying bonds to great encounters-



▲子ども若者ご縁づくりシンポジウム

### P2 新年のご挨拶

- P3 教区委員会研修会 I
- P3 研修会のお知らせ
- P4 福岡真宗青年の集いvol.20
- P4 結成五十周年記念の集い
- P5 子ども若者ご縁づくり公開シンポジウム

### P2 連研のための研究会

- P5 講社研修会
- P6 桑湾・北豊・福岡教区 仏教婦人会交流会
- P6 福岡教区 門徒代表者研修会
- P7 福岡教区 少年連盟指導者研修会
- P7 法話「煩惱の眼」
- P8 行事予定

# 新年のご挨拶

福岡教区教務所長・本願寺福岡教堂主管 菊池 慈峰



流れゆく時の  
中で二〇一七年  
の幕開けに際し、  
謹んでご挨拶申  
しあげます。ま  
た、日頃より福  
岡教区・本願寺  
福岡教堂の諸般  
についてご指導ご協力を賜りますこと、  
誠に有り難く衷心より御礼を申しあげま  
す。

さて昨年は、福岡教区にとりましても、  
私個人にとりましても、激動の一年であ  
りました。  
四月のご門主さまの福岡ご巡回・ご巡  
拝、七月の「九州地区組長研修協議会」  
の福岡開催、そして十月からの「伝灯奉  
告法要」と。殊に四月十四日・十六日に  
発生した「平成二十八年熊本地震」では、  
福岡教区の三十一のお寺で大小の被害が  
出ました。さらに門信徒の皆さまのご家  
庭でも大きな被害が出たことでありまし  
た。その震源地の熊本で甚大な被害が出  
て、本堂や庫裏が全壊するというお寺が  
約二十ヶ寺あり、今なお、復興がまだま  
だ厳しい状況です。さらには大分県の西

部や佐賀県の東部にも被害が及びました。  
ご門主さまには、熊本教区を中心にお  
見舞いをされ、福岡教区には、七月二十  
七日に前門さま・前裏方さまがお揃いで  
柳川市の被災寺院にお見舞いに来ていた  
だきました。また、災害ボランティアと  
して福岡教区の僧侶・門信徒の皆さまに  
幾日もお出かけいただき被害復旧に努め  
ていただき、宗門全体としても、本願寺  
大牟田別院に災害ボランティアセンター  
を設置して拠点といたしました。

実践運動の重点目標「災害支援：東日  
本大震災をはじめとする被害者への支援」  
が同じ第五連区内の災害に適用できる結  
果となりました。災害は何時・如何なる  
時に、何処でも起こり得るものです。

「浄土真宗の教章(私の歩む道)」の「自  
他ともに心豊かに生きることのできる社  
会の実現に貢献する」ための私たちの歩  
みの大切な一面として、今後も災害支援  
に力を注ぎたいものです。

本年もさまざまにご教導いただきます  
ようお願ひし、年頭のご挨拶といたしま  
す。

合 掌

# 連研のための研究会

十月十三日(木)、講師に石崎博敏さ  
ん(連研中央講師・大阪教区 天野南組  
大円寺)をお迎えし、「連研の目的と願  
い」をテーマとして連研のための研究会  
を開催いたしました。これは、いつしか  
連研の目的が「実施すること」や「門徒  
教化」にすり替わってしまいかねない現  
状を再確認すべく、テーマ設定いたしま  
した。



班に分かれての話し合座

まずは、講師からの  
問題提起の前に、組連  
研の取り組み状況の発  
表を今年も東筑組にし  
ていただきました。そ  
して、今年の新たな試  
みである門徒推進員と  
ともに取り組む活動報  
告を、怡土組真教寺住  
職 山崎恵昭さんから発  
表していただきました。  
他の組や他の寺院の取  
り組みや状況をなかなか知る機会ない中  
でのこの報告・発表は、それぞれの連研  
を作り上げていくうえで参考になったと  
思います。

石崎さんからの問題提起は教団の運動  
を再確認しながら進められました。基幹  
運動で展開してきた同朋運動(差別・被  
差別からの解放をめざす運動)と門信徒  
会運動(本来あるべき伝道教団への回帰  
をめざす運動)を確認すると、基幹運動  
とは「私と教団の体質や構造を問う『本  
来化』の運動であり、私や教団のあるべ  
き姿をめざす運動」であり、その運動の  
はたらく向きは他者や世間に向けられる  
のではなく、私たち自身に向けられる  
のだと明らかにあります。しかしながら  
御同朋の社会をめざす運動(実践運動)  
に変遷するなかで「基幹運動での成果や

提起された課題(差別問題やヤスク二問  
題といった未解決のままの諸課題)は継  
承されているのか?これまで推進してき  
た同朋運動と門信徒会運動をどのように  
展開していくのか?という懸念が提示  
されました。そのうえで「連研とはも  
に活動してくださる門徒推進員の誕生を  
めざすことが目的だ。」と押さえていた  
できました。

そのうえで「門徒推進員という存在を  
どう認識していますか?」、「どのような  
お寺(門徒・僧侶)の姿が、本来の(あ  
るべき)姿でしょうか?」と二つの問題  
提起がなされました。

まとめでは、「浄土真宗のみ教えにて  
あったからこそ生きかたがあるのでは  
ないですか?」と問いかけがありました。  
それは、私たちがご法話で度々聞かせて  
もらう、自身の姿が明らかになったから  
こそその歩みということでしょう。そして  
「僧侶も門徒もともに学んでいく場が連  
研の本来の在りかたであり、み教えに私  
や私の生きかたや私が生きる原動力を聞  
くことが『聴聞』では」と提起してい  
きました。

以前に「連研をしないということは、  
門徒さんからお聴聞の場を奪っているこ  
とだ。」と聞かせてもらったことがあり  
ます。連研で行う話し合い法座もご法座  
の一つです。誰もが抱え持つ悩みや苦し  
みなどをお互いに話し合い聞き合うとい  
う「話し合い法座」が持つ大切な意義は、  
み教えを聞き、そしてみ教えに聞いてい  
くことに他ならないでしょう。だからこ  
そみ教えにであい、であったからこそその  
歩みが開かれていくのだと思います。

「もの知り同行」、み教えをよく聞かれ  
た門徒を僧侶が擁護して指す言葉として  
聞くことがあります。しかしこれは「善  
悪の字しりがほ」になっている「私」の  
言葉ではないでしょうか。

門徒・僧侶がともにみ教えに問い聞き  
学ぶ、連研がそのような場となることを  
願ひながらこれからも「連研のための研  
究会」を開催してまいります。

# 教区委員会研修会 I

福岡教区実践運動同朋運動部会 部長 黒木 観之

教区実践目標である「御同朋の社会をめざす運動」の拠りどころを確かめよう」にもとづき、教区委員会主催の研修会Iを、十二月六日、藤丸智雄総合研修所副所長をお招きして開催しました。「御同朋の社会をめざす運動」と公共性をテーマにご講義いただきました。

『本願寺白熱教室』(2015年・法蔵館)に書かれた「公共性」について、「宗法」に「自他共に心豊かに生きることのできる社会」とありますが、その「自他共に」ということはどういうことなのか。また、どういうことをめざしているのかと提起されました。

まず、この世に生きる人々が、現代社会をどういう価値観をもって生きていきたいのかを、倫理の上で問われていることでした。

そこで、『歎異抄』第一条の御文をあげられました。善悪をめぐる問題が混乱し、造悪無碍・専修賢善、そして正当念仏者の三つのグループに対立し論争になったとのことです。その後、東国に善鸞を説得に派遣したが、専修賢善は、政治権力と結びつき、造悪無碍や正当念仏者を弾圧したとされます。その、中世や近世では、人々は政治権力や道徳の下に生活を強いられていたが、『歎異抄』に説かれる善悪感の違いにより、縛られたものがなくなると人が迷い、社会秩序が瓦解し見失うことになったとの事です。それから、何故、ギリシャで、倫理が



おきてきたのか。そして倫理から公共性というところが出てくるのか。ギリシャ神話の神々は人間に近い生き方をしていて自由であったからとされる。その権威の低さにより、神の命令に従って生きるものがなく、そこに自由な生き方が生まれってきた。この二つの歴史背景からみると哲学であり倫理であるとされ、公共性につながるのだと言われました。

また、仏教以前のバラモン教も神様にお祈りしたら良いことがもたらされると説き、人々を支配していた。「祭り」の文字に表されるように、神に犠牲をささげることによって幸せになるようにというところを批判し、業の思想を説かれてい

きました。業とは行為のことだから実践を通してしあわせになっていこうという、仏教の基礎が出来たといわれました。また、「公共性」の「公」とは部首が八部ということ、開いているという意味がある。私たちの社会には必ず内と外があるから、閉じるのではなく出かけていくことで共有できる道が開けるのではないただきました。

親鸞思想により、善悪ということをお身の業の深さとして、聞き開くことが出来るのです。善悪を立てることによって閉じられた社会を作るのであるから、開かれた社会を作るのもっていき繋がついていくという「公共性」の概念はおおいに私たちの教えや伝道とつながるのではないかとのことでした。

自死問題・東日本大震災をはじめとする被災者に対しては、悲嘆が除かれることが大事であるからこそ、寺院が切実な思いを持たれた方に対して寄り添えているのか、と常に問うことが大事であるということでした。

「自他共に」の他とは、他者という考えから今回の公共性ということにつながっていくけれども、そこには寄り添うということが大事であるといいただきました。その後の、全体協議会におきましては、伝道の再構築についてや、宿業と公共性自衛隊の南スーダンへの派遣問題など、いかに教団で平和を創りあげていくかの質問があり、ご講師の見解をいただきました。

なお、研修会IIとして、二〇一七(平成二十九)年二月八日に徳永一道勸学寮頭をお迎えし、「運動の拠りどころを確かめる」をテーマにご講義いただき、ともに考える予定ですので、多くの方々がご参加をお願いいたします。

## 福岡教区「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動) 研修会

日時 2017(平成29)年2月6日(月) 14時30分開会  
 会場 本願寺福岡教堂 3階礼拝堂  
 テーマ 葬送儀礼にかかわる諸問題に学ぶ  
 ～『お坊さん便』から見えてくる課題～  
 講師 瓜生 崇さん(真宗大谷派 玄照寺住職)  
 対象 僧侶・門信徒  
 日程 14:00 受付  
 14:30 開会式(お勤め・挨拶)  
 14:45 講演  
 15:45 休憩  
 16:00 全体会(質議応答)  
 16:50 閉会式

## 福岡教区「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動) 研修会II

日時 2017(平成29)年2月8日(水) 13時30分開会  
 会場 本願寺福岡教堂 3階礼拝堂  
 テーマ 「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)  
 の拠りどころを確かめる  
 講師 徳永 一道 勸学寮頭  
 対象 僧侶・門信徒  
 日程 13:00 受付  
 13:30 開会式(お勤め・挨拶)  
 13:45 講義  
 15:45 全体会(質議応答)  
 16:45 閉会式

# 仏教青年連盟主催 福岡真宗青年の集い vol.20

福岡教区仏教青年連盟 副委員長 小山 真行

十月十六日に御笠組光蓮寺さんにて福岡真宗青年の集いvol.20を開催しました。今回は、一部にお店を募ってマルシェを開店し、二部に講演会という企画でした。前半のマルシェでは、会場設営から携



マルシェ

わること、出店される工程を見ることができ、また出店された方々とお話する機会もあり、売り手側の熱い思いや背景を理解することができました。またお客様を引き付ける工夫など多くの事を学ぶことができました。二部の講演は、「便利な世の中になっても人々の心が変わらなければ本当にみんなが暮らしやすい社会にならないのでは？」という考えの基、「みんなが幸せな社会って？貧困・格差を考える」をテーマに開催させて頂きました。講師の奥田知志さんは日本バプテ

講演を聞いてその後、僧侶でもあり筑紫女学園大学の現代社会学科の教授も務めておられる栗山俊之さんと、「キリスト教×仏教」と題して共に経験談を交えてわかりやすくお話しして頂きました。

## 仏教とキリスト教

スト教とでは教えが全く違うというイメージがあると思いますが、共通する所もあり、仏教では「救われるけれども開き直って悪をして良いわけではない。」、キリスト教では「神に告白することで罪を許されて行くけれどだからといって罪を犯してよいということではない。」という所、そして「共に生かされている我が命、他の命をどう活かしていくか」という事を大切にしている所が印象に残りました。

今回の行事を通して多くの学びに出会わせて頂きました。平素は欲にまみれ生活している私ですが、おかげさまでわが身を振り返り、その命をどう活かしていくかを考えさせられ、深く、広いご縁を頂きました。



# 仏教青年連盟 結成五十周年記念の集い

十月九日(日)本山にて仏教青年連盟結成五十周年記念の集いが開催され、福岡教区からは十一名が参加をしました。記念講演に、ネパール開教事務局長のソナム・ワンディ・ブテイヤ師からお話をいただきました。

記念行事として東九州龍谷高校の生徒徒で結成されているNUMNUM GIRLS (ナムナムガールズ)の公演や、『ともしえ』による影絵を用いたの法話や、消しゴムはんこ作り体験、各教区によるブースコンテストが行われました。

参加者は受付時に写真を撮り、その写真を使い缶バッジを作り、缶バッジでモザイクアートを作成しました。参加者に地域別に色が違うシールがくばられ、他教区の人と話をしてシールを交換しようというシールラリーも行われ、シールをきっかけに他教区の人と会話をすることができました。

福岡教区のブースでは新聞紙の中から「あ、み、だ」の文字を早く見つけ、タイムを競うという言葉探しゲームを行いました。また九州各教区の合同企画として九州スタンプラリーを実施しました。

閉会式後、現仏青会員交流会とOBの

方たちの同窓会が会場を分けて行われました。

記念の集いは参加者が楽しめるような企画がされており、新しい試みをしたくさん行っており勢いを感じました。福岡教区から参加された方に仏青の行事に初めて参加した人もあり、「福岡教区、他教区の近い年代の人と話す機会がいままでなかったのでも楽しかった」という声も聴きうれしくなりました。他教区の仏青活動の話聞き、福岡教区ももっと仏青を盛り上げていこうと会員も熱くなりました。



福岡教区のブース

# 子ども若者ご縁づくり公開シンポジウム

福岡教区子ども・若者ご縁づくり 佐野 唯信

二〇一六(平成二十八)年十月十七日福岡教区子ども・若者ご縁づくり推進委員会が主催して、思春期・若者を知るための公開シンポジウム「イマドキ思春期の悩みとモヤモヤ」を開催いたしました。このシンポジウムは、「性」の問題を切り口にして、現代社会の思春期・若者の持つ「生きづらさ」について考えていく事を目的としました。

講師として「コンドームの達人」と呼ばれ学校性教育の第一人者である、泌尿器科医の岩室紳也先生。若者の「リストカット」などの自傷行為や依存症治療の第一人者、精神科医の松本俊彦先生。ゲストパネラーとして女性の「性」を語る立場から、現役セクシー女優の吉沢明歩さん。パネルディスカッションのコーディネーターとして、現代社会の思春期・若者の持つ「生きづらさ」について考えていく事を目的としました。



イネーターは日本思春期学会理事であり本願寺派僧侶の古川潤哉さんが務められました。

当日は200人を超える来場者があり、半数は一般の方でした。

また僧侶の来場者は県外、遠方の方も多く、メディアの取材もあり、広範囲に関心が持たれた企画であったのだと改めて実感しました。



講演の内容は、両先生それぞれの専門分野から講義されましたが、単なる専門分野からの講義ではなく、着地点は「関係性」の大切さ、信頼できる大人が必要、安心できる居場所をつくる、「人」として依存出来る大人であるべき、といった聴衆へのメッセージであったのが驚きでした。

パネルディスカッションでは、講師のお二人に加え、吉沢明歩さんがパネラーとして、古川さんがコーディネーターとして加わり進行されました。吉沢さんは現役のAV女優ですが、ア

ダルトビデオは性の教科書などではなく、あくまでもファンタジーとして見て欲しいと注意を喚起をされ、セックスは女性が安心でき、幸福を感じることが出来るものであつて欲しい、と女性としての意見も言われました。

そのような言葉を受け、今の若者は知るべき事を学ぶ機会が少ない事が問題であり、その要因として、彼等に必要な「関係性」を持つていない、または構築できない環境にない、そしてSNSなどで関係を擬似的に維持している事が多い事を指摘され。彼等にとって若者同士だけでなく、大人と子ども・若者の関係の中にも本音で話せる相手がいるということはとても大事なことで、そういう役割を皆さん大人が若者の問題を知り、大人の側から積極的に「関係性」を構築して欲しいと結ばれました。



パネルディスカッションの様子

今の子ども・若者は、こうでなければならぬ、という重圧の中で自らを肯定できないという生きづらさを抱えています。そのような悩みとモヤモヤを抱えつつ、それでもいいんだと思つてもらえるきっかけとなるような、心許せる大人であり、お寺、僧侶であるべきだと思いを新たにさせてくれるシンポジウムでした。

# 講社研修会

十二月十二日、十三日に大分県花菱ホテルにて「北九州ブロック講社講師研修会」が開催されました。北豊教区、福岡教区合わせて38名の参加がありました。ご講師の藤井 邦磨さん(大分教区速水組正善寺住職)にご法話を頂き、講社連盟のスローガンである「愛山護法」について丁寧にご説明して頂きました。ご法話の中で、「浄土真宗のお寺は道場からはいった」というお話が出てきて、お寺は開法の道場という事を聞いたことがありませんが本場に道場からお寺がはじまっていたことを知り大変勉強になりました。二日目の朝は、別府別院へ晨朝参拝をいたしました。二日目の研修では、各講がどのような活動をしているのか話し合いました。その中で、本願寺のホームページ内に講社の説明が書かれておらず、どのような活動をしているのか、講社自体を知らない人が多く、ページを作ってもらえないかという意見がでました。

休止していく講も増えていく中活動していくためには、やはり存在を知ってもらうという事、参加してもらうという事が大切になってきます。各講や今回の講員研修会など、さまざま取り組みをしているので積極的に参加をしてほしいと願っております。

講社連盟とは? 浄土真宗の教えにもとづいて、愛山護法の思いから本山本願寺を護り、積極的に協力し、いかなる時代にあつてもお念仏一つで救われていく如来様のお慈悲の尊さ有難さを、後の世まで伝えるために活動している本願寺の団体です。現在は300講余の講社で全国講社連絡会を組織しており、福岡教区には14講あります。



桑湾・北豊・福岡教区 仏教婦人会交流会

桑湾・北豊・福岡教区の仏教婦人会は姉妹提携を結んで今年で30年になります。この間、隔年で交流会を実施し友好関係を深めてきました。

今年、桑湾教区サンフランシスコ仏教会から福田慈子さん、柏木貞子さん、オークランド仏教会から林田ジョアンさん、浜本ジュンさんを十月二十日から二十七日の日程でお迎えしました。第二十五代専如門主伝灯奉告法要の年でもあり、法要に参拝いただきご縁にもなりました。福岡教区では、オークランド仏教会のお二人を怡土組正入寺様で二十三日と二十四日の二日間お迎え(ホームステイ)いただきました。



福岡教堂にて

福岡教区門徒代表者研修会

福岡教区門徒代表者協議会副会長 林 賢太郎

快晴の十二月一日(木)十四時から、教堂において、福岡教区門徒代表者・御法中百十二名参加のもと「福岡教区門徒代表者研修会」が開催された。

御講師は熊本教区教務所 農 利信教務所長で、「平成二十八年熊本地震」の現状と課題、門徒総代としてを研修テーマに御講話を頂いた。農教務所長は昨年四月一日付で前任の東北教区教務所長から熊本教務所に着任されたばかりの四月十四日に前震、十六日に本震に見舞われたそうです。今日まで震度一以上が四千回も起こっており、熊本教区内全寺院四六六ヶ寺中約七〇%に当たる三二六ヶ寺が被災し、内大規模倒壊が二〇ヶ寺、半壊が六四ヶ寺、一部損壊が約二〇%との事であった。外見は何ともないが内部は混乱している状況で、東北の体験から御本尊だけは安全な場所に避難させている。人的には二十七名の御門徒がなくなられ、宗門からは弔慰状とお見舞い金が贈られた。

熊本は現在二〇%が回復し、避難所も今月で無くなる予定である。熊本並びに周辺の県は浄土真宗の寺院や御門徒が多く、人的にも物的にも支援体制が整い感謝されていた。

今回の熊本地震で体験したことを踏まえ、今後の「課題」がみえてきた。それは、「ボランティアネットワーク作り」である。被災地の何処で、どの時期に、

どんな支援物資や人的支援が必要とされているかを的確に伝達するルート造りの確立である。

門徒代表者に望むこととしては、①ボランティアの先頭に立って活動してほしい事、②寺の復興計画を御任職に協力し作成する事、③お寺は地域住民の心のよりどころであるとの認識を持ち仮設でも狭くても良いから一日も早い本堂の再建に努力する事、④寺院再建の為の寄付金集めを門徒代表者の方から任職に申し出て頂きたい。(任職の方からは言いにくい。)⑤私の命の在り方を考えるいい機会を与えて頂いたと気づく。等々お話しただいた。参加者一同、貴重な体験談を通して避難時の門徒代表者の心構え、役割について大変参考になる講話を頂き感謝しております。

今後は、各組内で同様の研修会を開催し趣旨の徹底が出来れば尚意義ある研修になるのではと思います。



# 福岡教区 少年連盟指導者研修会

福岡教区少年連盟 副委員長 伊藤 真利

十月二十四日(月)、本願寺福岡教堂地下研修室において、福岡教区少年連盟指導者研修会「カレーライスはもう飽きたーっ」 ペットボトルで「ピザ作り」を開催いたしました。

ご講師には、ペットボトルピザ作りを各地で講演されていらっしゃる佐藤和彦さんをお招きして、段ボールオーブンとペットボトルピザの作成方法を教えて頂きました。2リットルペットボトル6本入りの段ボール箱やアルミホイル等を用いてオーブンを作り、そこに、ペットボトルを使って作ったピザ生地に野菜やチーズ等をトッピングして焼き、美味しくいただきました。少年連盟の研修会ということ



ダンボールで作ったオーブン



で、ピザ生地を混ぜるダンスや、生地をペットボトルから出す際の注意点など細かく丁寧に指導していただきました。



今回、この研修会を開くにあたり、先日起こった熊本地震など昨今頻発している災害時の食べ物をいかに確保するかがテーマとしてありました。東日本大震災の時には、ボランティアの炊き出しで、温かい食べ物が喜ばれたそうです。災害時に温かい食べ物をいかに確保するか。その点では、今回のペットボトルピザは有用ではないでしょうか。ペットボトルピザの生地は、ペットボトルと材料があれば簡単に作れます。段ボールオーブンは一旦作れば何度も使えるそうです。ご講師は、何度も熊本に行かれて、ペットボトルピザ作りの教室を開いたり、ボランティア活動をされたりしていらっしやるそうです。「一度熊本に行かれてみてください」という先生の言葉が印象に残ったことでした。

## 一言法話

新しい年を迎えました。初日の出を見たという方もいらっしゃるかもしれませんが。十二月三十一日や一月二日の朝日と元日の朝日は、客観的にはほぼ同じでほとんど違いはないのかもしれませんが、それでも見る人にとって違って見えるのは、視力の問題ではなく、見る人の心に特別な思いがあるからでしょう。

### 「煩惱の眼」

西嘉穂組 西蓮寺 渡辺 慈海

たまに「仏様やお浄土が本当にあるなら見せてほしい、見せてくれたら信じる」という方がおられますが、私の都合次第で見え方の変わる煩惱の眼に映るのは「素晴らしいと思うこともあれば、つまらない・どうでもいいもの」としか思えないこともあります。

煩惱の眼で観るのではなく、すでに私に向けて届けられている阿彌陀さまのお慈悲の心をいただくというのが浄土真宗です。お慈悲の心によって建てられたご本願を聴かせていただき、お慈悲の心によって完成されたお念仏をいただき、お慈悲の心を教えとして私のあり方や生きている世を問うていくのが真宗門徒なのです。

つまり、私の都合や心の状態：煩惱によって、素晴らしいものに見えたり、つまらないもの・どうでもいいものに見えたりする。同じものを見ても「同じようには見えていない」のです。朝日の輝きを眺める時にもふと、常に私を照らし続けて下さる阿彌陀さまのお慈悲を感じてお念仏が出てくる。一日・一年の始まりも、み教えと共にあります。

福岡教区の予定表

月	日	曜	時	内 容
1月	17	火	14:00	ビハーラ・ライン例会 / 14:00 戦後70年シリーズ冊子化検討会
			18:00	怡土組 僧侶研修会 (円光寺)
	18	水	14:00	ビハーラ福岡 例会 / 15:00 実践運動 常任委員会
	19	木	14:00	ビハーラ・ライン役員会 / 第5連区門徒代表者協議会 (鹿児島 ~20日迄)
	20	金	14:00	少年連盟 子どもの集い (準備) / 15:00 実践運動 同朋運動部会
	22	日	11:00	少年連盟 子どもの集い
	23	月	13:30	御笠組 僧侶研修会 (正栄寺)
	24	火	10:00	仏教婦人会若婦人部 報恩講準備
			13:30	西嘉穂組 実践運動推進協議会 (明圓寺)
				第5連区少年連盟指導者研修会 (鹿児島 ~25日迄)
26	木	10:30	教堂・教区報恩講法要 (~28日迄)	
30	月	13:30	夜須組 実践運動推進協議会 (信覚寺)	
31	火	14:00	実践運動 寺院機能推進部会	
		15:00	第5連区門徒推進員連絡協議会 (~2月1日迄)	
		15:00	第3回社会福祉推進協議会 役員会	
			少年連盟第2回評議員会 (本山 ~2月1日迄)	
2月	2	木	13:00	門徒推進員連絡協議会 役員会
			14:00	ビハーラ・ライン例会 / 鞍手組 僧侶研修会 (真教寺)
				本派矯正教化連盟福岡管区連絡協議会 研修会 (沖繩別院 ~3日迄)
	3	金	18:00	仏教青年連盟 新春の集い
	4	土	13:30	遠賀組 実践運動推進協議会 (真楽寺)
	5	日	14:00	寺院仏壮結成に向けた研修会 (那珂組 浄福寺)
	6	月	14:30	実践運動研修会 (葬送儀礼)
	7	火	12:00	布教団 企画委員会 / 13:30 宗像組 実践運動推進協議会 (西法寺)
			14:00	布教団 役員会 / 夜須組 僧侶研修会 (教法寺)
	8	水	13:30	実践運動研修会 II (実践目標)
	9	木		社会福祉推進協議会 / 評議員 東北現地ボランティア (東北)
				実践運動 第5連区合同会議 (熊本別院)
	10	金	13:30	粕屋組 僧侶研修会 (西法寺)
	13	月	13:30	上下組 僧侶研修会 (勸正寺) / 13:30 西嘉穂組 僧侶研修会 (西蓮寺)
			16:00	保護司会 研修会 / 保育連盟 第1回評議委員会 (本山)
	14	火	11:00	清掃奉仕 (遠賀組・柳川組)
			13:30	親鸞聖人鑽仰講座 (~15日迄)
			13:30	那珂組 実践運動推進協議会 (松源寺)
	16	木		第20回 仏教婦人会若婦人部 大会運営委員会 (熊本別院)
	17	金	13:30	寺族婦人会連盟 実践運動研修会 / 14:00 実践運動 非戦・平和部会
		15:30	保育連盟 園長研修会	
18	土		門徒推進員連絡協議会 第2回研修会	
		15:00	福岡組 僧侶研修会 (光圓寺)	
			仏教青年連盟リーダー研修会 (大分 ~19日迄)	
20	月		第5連区青年布教師研修会 (北豊 ~21日迄)	
21	火		九州地区組長理事会 (佐賀)	
22	水	13:30	恵信尼法要実行委員会	
		14:00	ビハーラ福岡 例会	
		14:00	東筑組 僧侶研修会 (善定寺)	
23	木	14:00	組長会 / 14:00 下川東組 実践運動推進協議会 (明光寺)	
24	金	10:00	染香会 / 14:00 第3回 社会福祉推進協議会 評議員会	
		14:00	実践運動 門信徒教化部会	
25	土		ビハーラ第5連区研修会 (大分)	
27	月	13:30	東日本大震災 7回忌法要	
28	火	14:00	実践運動 常任委員会	
3月	1	水	14:00	ビハーラ例会
	2	木	10:30	教堂委員会 / 13:00 常備会 / 14:00 ビハーラ・ライン例会
	4	土	14:00	仏教壮年会連盟 理事会 / 鞍手組 実践運動推進協議会 (円徳寺)
	5	日	13:30	連研履修者教区研修会
	6	月	10:30	仏教婦人会連盟 支部長会
	14	火	11:00	清掃奉仕 (八女組・鞍手組) / 13:00 親鸞聖人鑽仰講座 (~15日迄)
	23	木	14:00	実践運動 常任委員会
	24	金	14:00	組長会
25	月	14:00	定期教区会	

編集後記

伝灯奉告法要に参拝団を引率しました。初めての本山参拝の方もおられました。帰敬式・ご晨朝に感動された方は多かったですね。ご門主ご家族のパフォーマンスには、驚きました。本願寺も変わっていくのですね。私たちのお寺も変わらねば・・・。

発行責任者

浄土真宗本願寺派 福岡教区教務所長 菊池 慈峰

〒810-0055 福岡市中央区黒門3-2  
電話:092(771)9081